

全国学校給食甲子園小坂小・中が大村智特別賞 3位相当



地元食材を使った献立のアイデアや栄養バランスの工夫を競う「第17回全国学校給食甲子園」の決勝大会が11日、東京都豊島区的女子栄養大で開かれ、北海道・東北ブロック代表として初出場した小坂町の小坂小・中学校は3位相当の「大村智特別賞」に選ばれた。

小坂小・中のメンバーは栄養教諭の加藤佑亮さん(27)と調理員の細越千鶴子さん(59)。加藤さんが原案を考えた献立は山菜入り炊き込みご飯、桃豚ときのこの炒め物、アスパラのハニーサラダ、うるいのみそ汁、町の花アカシアの蒸しケーキの5品と牛乳で構成した。蒸しケーキには、児童らが5月下旬に学校の近くで摘んだ花をのせた。



決勝大会には4回の書類審査で選ばれた7校・施設が出場。制限時間の1時間で6食分を作って食味など

の審査を受けた。加藤さんは「周囲の支えと、これまで町の学校給食に携わった方々の努力のおかげで受賞できた。感謝の気持ちでいっぱい」と話した。

給食甲子園はNPO法人21世紀構想研究会(東京)主催。書類選考による予選には、全国1249の学校や施設が応募していた。優勝は兵庫県宍粟市立山崎学校給食センターだった。

(高橋秀明)

(秋田魁新聞 令和4年12月13日(火)より一部抜粋)

田んぼアート米 お味は? 北秋田清鷹小児童が試食



秋田内陸線・縄文小ヶ田駅(北秋田市)の田んぼアート会場で収穫したお米の試食会が8日、同市立清鷹小学校で開かれた。

5年生26人が沿線住民らと一緒に田植えや稲刈りをし、あきたこまち約200キロを収穫。このうちの約4キロを味わった。

同駅近くには世界文化遺産の伊勢堂岱遺跡があり、今年の田んぼアートは、遺跡から出土した板状土偶をモデルにしたキャラクター「いせどうくん」が描かれた。児童は試食前、遺跡を盛り上げるため、キーホルダーやしおりといったPRグッズを作製したことなどを報告した。

その後、ナメコのみそ汁とともにご飯を試食。長岐侘奈さん(11)は「自分たちで育てたお米は軟らかくておいしい。『いせどうくん』はかわいいのでもっと見に来てほしい」と話した。

(読売新聞 令和4年12月9日(金)より一部抜粋)